

文化的景観と棚田の風景

蘭島（あらぎ島）をはじめとした棚田の景観は、季節にあわせて周期的に、そして人々の営農活動によって劇的に変化することが大きな特徴です。

稲刈りの後、約半年の間、大きな変化がなかった棚田にも、春が訪れ、本格的な営農活動によって大きな変化が生じてきます。4月後半頃から行われる田起こしの後、水が張られ、田植えの作業となります。水が張られた棚田は、水鏡となつて空を映し出し、最も印象的な景観へと変化します。6月の終わり頃には、稲が成長し、緑の絨毯がしかれたような景観に変化していきます。

9月初め頃には、稲が緑色から黄金色へと変わり始まりますが、蘭島の場合は田植えの時期によって色合いが異なり、黄金色に色付き始めた頃には稲刈りが始まるため、全てが黄金色の景観が見られるのはごく僅かな期間しかありません。

私たち人間は、自然の力を借りなければ食料を生産することはできませんが、自然の利用が人々の暮らしを豊かにし、人々の営農活動によって維持されている棚田が動植物の貴重な生育、生息場所ともなり、自然をも豊かにしています。季節によって変化する美しい棚田の景観

は、人々による自然を利用した暮らしが生み出した文化的景観の代表的なものです。その存在は人間が自然の一員であることを示すものでもあります。

